

# ぶうげんびりあ8月 No.1

2018年 8月号 No.230 <http://www2.synapse.ne.jp/ainohamaen>

編集・発行 障害者支援施設 愛の浜園  
奄美市名瀬大字知名瀬2504  
TEL:54-8011 FAX:54-8012

日本で古くから伝えられてきた風習である七夕飾り。愛の浜園では今年も大きな四本の竹に、利用者さんや職員で、それぞれの願い事や色とりどりの装飾を施し「天まで届きますように」と中庭にきらびやかに掲げられました。数日経つと、天に願いを届けるという役目を終えた短冊や装飾が夜露や雨風によって地面に落ちていきます。さあ、後片付けの始まりです。落ちた短冊を拾う際に願い事を読んでみるのですが「おいしいものをたくさん食べたい」「おかあさん、ともだちとなかよくしたい」「宝くじが当たりますように」「野球をたくさん観たい」「〇〇さんにお母さんになってもらいたい」など、様々な願い事が書いてあり、自然と笑みがこぼれました。一人一人の純粋な「願い」を垣間見る事の出来た後片付け、どうかどうか、皆の願いが叶いますように。(副主任:田畑)

## 8月行事予定表

- 1日(水):体重測定・血圧測定
- 3日(金):奄美祭り花火見学
- 7日(火):健康診断(男性)・ヘルスタイム
- 11日(土):納涼大会
- 21日(火):健康診断(女性)
- 22日(水):健康相談
- 23日(木):ジャンベ
- 30日(木):奄美市ガン検診(施設入所)
- 31日(金):奄美市ガン検診(グループホーム)
- ※ 13日(月)~15日(水):新盆
- 23日(木)~25日(土):旧盆 になります

## お誕生日



森山 麻李亜さん 平田 広人さん 勝山 道代さん 中島 勇さん 郁 一男さん 平山 和子さん

## おめでとう

## 三賞受賞者

### (親切賞)

・政岡 りつ子さん ..グループホームで、他利用者の手伝いを親身に行ってくれました。

### (奉仕賞)

・禎 文勝さん.....皆で使用する共通の洗面所を掃除してくれました。  
・仁島 紀寿さん・酒井 真希さん・島本 誠さん・徳 朋裕さん.....食器の片付けを頑張りました。  
・政 みさ子さん・竹田 美喜子さん 田中 國枝さん..食後の薬(錠剤)を自分で飲む事が出来るようになりました。  
..2年間自治会役員を頑張りました。

### (努力賞)

・光 優輔さん.....部屋の片付けが出来るようになりました。  
・森山 麻李亜さん..毎日日記を書く事を頑張っていました。  
・幸 裕次郎さん...「夏に親しむ」では車椅子に頼ることなく海辺を楽しんで走ることが出来ていました。

## 再び! 納涼大会のご案内

台風で延期になりました夏の恒例行事、納涼大会を下記の通り実施する事になりました。つきましては納涼大会が盛大に行われますよう、より多くの方々のご参加をよろしくお願い申し上げます。

記

日時:平成30年8月11日(土)  
開場 午後6:30 午後7:00~9:00  
場所:夕日が見える公園(知名瀬緑地公園)

## 夕涼み会

7月21日(土)、納涼大会の予定でしたが、台風10号が接近し、8月11日(土)に延期になりました。利用者が楽しみにしていた行事だということもあり、急遽、8月31日(金)に予定していた夕涼み会と入れ替えて行う事になりました。納涼大会の係りと夕涼み会の係りが合同で料理、余興など話し合い、多目的ホールで行いました。余興ではカラオケを歌いたい方の希望を聞いていましたが、飛び入りで突然歌いたいという利用者もいたり、ちょっと前にブレイクしたダンシングヒーローの歌にあわせたダンスの披露や、お菓子釣りゲームをもありと2時間があっという間に過ぎました。愛の浜園ジャンベ隊も回を重ねる毎に上達し、身体を動かしながら太鼓を叩いていました。食べ物は焼きそば、焼き鳥、唐揚げ、おにぎり、ハンバーグ、ポップコーン、アイスクリームと食べきれないほど豊富で、アルコールも入り、利用者、職員とも大満足でした。(記事:福山)



## 夏に親しむ

### 生活介護

7月5日(木)に国直(くになお)ビーチに海水浴に行きました。現地に着くと風が強く波が立っており、利用者さんの安全を優先し、公民館でレクリエーションや町内の散歩等を行い、それぞれ楽しみました。午前中は公民館の中にブルーシートを敷き、海に見立てて浮き輪を並べ、浮き輪の中に置いたお宝(ジュースやお菓子)を竹竿で釣り上げ皆で盛り上がりました。お弁当を食べた後は、かき氷が順番待ちになるほど人気で、かき氷や国直区長より頂いたスモモジュースなどを美味しく頂きながら、スイカ割りも楽しみました。海水浴を楽しみにしていた利用者さんも多いので、来年はカラッと晴れてほしいものです。(記事:前之園)



## 夏に親しむ

### 就労継続支援B型

7月6日(金)就労継続支援B型事業で大和村(やまとそん)へ遠足に行ってきました。普段は作業に取り組んでいる利用者さん達の中には、「海辺でゆっくり過ごしたい」との意見もあり、海辺での休憩組と釣り大会組に別れて各々楽しむ事になりました。愛の浜園から車で移動すること40分、津名久(つなぐ)集落の某所穴場へ移動し、釣り大会が始まりました。開始30分、利用者さんに早くも釣果があり、それから1時間で5匹。一度、皆で昼食を済ませるとすぐに釣り組の皆さんは午後の部を再開したのですが、2時間で釣果は2匹。全員が魚を釣れたわけではありませんでしたが、普段一生懸命働いている皆さんはリフレッシュする事が出来たのではないかと思います。このような季節に応じた行事を楽しむためにも日々の作業に頑張っておりたいと思います。(記事:田畑)

## みんな笑顔で



7月24日(火)にレクリエーションを行いました。この活動は、今年度から「レクリエーションの日」として毎月実施するもので、今回が第3回目となります。毎回、レクリエーションの係りで利用者さんが楽しめるゲームやその他、企画などを考えるのですが、今回は屋園支援員発案による風船を使ったゲームを行いました。男性女性に分かれ、うちわやボールを使い、いかに早く籠から風船を全て出すかを競うゲームや、うちわの上に風船を置いてのりレーなど数種類のゲームをしました。途中、風船が割れるなどのハプニングもありましたが、ゲームに参加している利用者さん、応援している利用者さん、皆笑顔で2時間たっぷり楽しみました。始まったばかりの活動ではありますが、これからも利用者さん全員が笑顔になれるような企画を考えていきたいです。(記事:河村)

## 奄美病院夏祭り

7月18日(水)奄美病院夏祭りに「愛の浜園ジャンベ隊」として参加させて頂きました。会場は大勢の方々に賑わっており、少々緊張気味の利用者さんもおりましたが、榮野園長、辻原課長代理、他支援員が会場に駆けつけて下さり、安心してステージに臨む事ができました。本番では、宝田 元気(ほうだ げんき)さんの力強い歌声と総勢17名が作り出す音色が会場全体を包み込み、愛の浜園の楽しい雰囲気の良い形で披露できたのではないかと思います。「愛の浜園にはたくさんの愛を感じるね。」ステージ後、病院職員の方からこのようなお言葉を頂きました。日頃から、利用者さんと向き合っている私たちにとって、最高に嬉しいお言葉でした。利用者さんのひとつひとつの経験に立ち会える事を幸せに思います。これからもジャンベを通して愛の浜園の雰囲気を取っ払ってたくさんの方々に感じて頂きたいです。(記事:屋園)



## 「看取りについて」の研修 ～命と向き合う支援～

7月11日(水)、大和診療所医師 小川 信(おがわ しん)先生に「看取りについて」の研修をして頂きました。私たちは、これまで、人権や差別、虐待、制度、障がいや特性についての事例検討、リハビリや介護技術等の研修をしてきました。しかし、「看取り」については今回が初めてで、とても勉強になりました。小川先生は、まず、私たちに「看取り」という言葉ではなく、「人生の終末期」という言葉を説明してくれました。また、その仕事に携われる仕事は素晴らしい。その言葉からのスタートでした。私たちがこれまで考えてきた「人生の終末期の場面」に関わった時、「私の力不足で…」「もっとやれる事があったのでは…」と不安になったり、自分を責めたりして、責任を強く感じていました。小川先生の研修を通して、気持ちが少しずつ楽になり、受け止め方が変わったのは、私だけではなかったと思います。「もちろん、尊い命が尽きる事は、とても辛いことです。」としながら、「最後に何ができるか？」という事より、「今、私たちに何ができるのか？」という事を教えて下さり、普段からの利用者との関わり方の大切さを伝えてくれました。私は、その時、相談業務(ていだ)で、「人生の終末期」のお客様を担当していました。今は、天国へ逝かれましたが、小川先生の研修を受けた直後でしたので、研修で学んだ事を私なりに活かし実践しました。でも、やはり命に関わる事は辛いです。しかし、この「人生の終末期」をもっともっと学ぶ事で、大切な命と向き合う事ができるという事も先生から教えられた気がします。本当に貴重な研修、ありがとうございました。(記事:辻原)



## 利用者さんの気持ちに寄り添って

叶 絹代(かのう きぬよ)さんは小柄な方で足もとても小さく、子供用では甲が当たってしまうし、大人用では22cmからしかない為、靴の爪先に詰め物をするなどの工夫をして長年過ごしてきました。そのために最近では足の裏の角質化が進み、ご本人も痛みを訴えていました。医師に相談し塗布薬を使用して角質を削り取る方法を試しましたが、絹代さんには合わなかったらしく、治療することが出来ませんでした。そこで、足の専門家「奄美フット」を受診してみる事になりました。とてもよい対応をしていただいて、絹代さんも安心していらしたようでした。自分から診察台に上り施術を受け「痛くないよ。頑張っているよ。」と言いながら、最後まで角質の削り落としが出来ました。本来はまだ深く硬くなっている部分をグラインダーで削る作業があるのですが、「ご本人の気持ちを大事に。」と言う事で、時間を掛けて行う事になりました。終わった後ご本人から「また来たい。ちゃんと治したい。」と言う言葉が聞けて、「奄美フット」の方も同行した職員も一緒に喜びました。運動会では徒競走が大好きな絹代さん。今度の大会では思う存分走れるようになるのではないのでしょうか。一つでも利用者さんの悩みが減って、楽しい園生活が出来るお手伝いをこれからもしていきたいと思っております。(記事:牧口)



## イюн汁(魚汁)に舌鼓

7月15日(日)、奄美磯釣連盟から、連盟主催のボランティア釣り大会の釣果が園におすそ分けされました。大きなクーラーボックスを開けてびっくり。「ネバリ(ホウセキハタ)」や「エラブチ(ブダイ)」、「シチ(イズミ)」など、島特有のカラフルなものや「だいばいゆ(大きな魚)」が沢山入っていました。「はげ～たまがり～(あらびっくり)」、「O×△□▽×～～！」利用者さんは嬉しそうにしたり、驚いたり、恐る恐る触ってみたりと、それぞれにいろんな表情を見せていました。そして翌日、そのお魚はおいしい「イюн汁」となり、利用者さんはおいしそうに舌鼓をうたれていました。奄美磯釣連盟の皆様、本当にありがとうございました。(残念ながら私は食べられませんでした…。)(記事:荒田)



訳:島の方言でイユとは魚のことです。

## 7月の愛の浜園



夏に親しむ



レクリエーションなど



夕涼み会